

Q1・目指すクロッキーや憧れているクロッキーは、どのようなものですか？

ジャコメッティや平野遼のようなタッチの集積で出来上がる画面に憧れがあります。ルドンのモノクロによるトーンと形の関係性が実現できればなぁと思ったりもします。

Q2・クロッキーで大切にしている要素は何ですか？

毎回、作品を作るつもりで描くこと。
惰性の技法に陥らないように工夫していくこと。
発見を心掛けること。

Q3・何分のクロッキーが好きですか？また、時間に制約がある事には、どんなメリットがありますか？

5分～10分くらい。
制作スタート時に持っているイメージが濃い間にフィニッシュできるので、狙いが明確になると考えています。

Q4・画面の大きさの好みはありますか？理由があれば教えてください。

描き慣れていることもあり、木炭紙大が描きやすいです。
画面のサイズが変わればそれに合わせた工夫を考えますが、小さい画面だと描きすぎてしまう傾向にあるので避けています。

Q5・クロッキーの描き出しはどんなことに気を使いますか？

写すのではなく、作るイメージを持つこと。
まずは人体の傾きと画面の奥行きを把握することに努めます。

Q6・クロッキーの終盤にはどんなことに気を使いますか？

タッチやストロークのリズムと、メリハリ。

Q7・クロッキーをしていてどんな時に慌てますか？また、どんな時に確信を得ますか？

描き出しから序盤にかけての入りが良いと、確信めいたものを感じます。それが無いとだんだん慌ててきます。
ただ、確信めいたものを感じてもそこから発展しない場合もあり、また慌てているからこそ、終盤に取り戻そうとして一捻り絞り出せることもあります。

Q8・動きのあるポーズと静的なポーズどちらが好みですか？又は好きなポーズの傾向はありますか？

静的なポーズを好む傾向にあると思います。
小物を持ち上げるなど「動作の途中」を描くことが多いので、静的なポーズの中に動きを見出したいといった感じでしょうか。

Q9・手に取る画材によって、描く対象の見え方は変わりますか？

鉛筆系の線が得意な画材は平面的な構造の観察、木炭などの塗りが早い画材は面を意識した視点になりやすいように感じます。

Q10・クロッキーとそれ以外の作品との関係性をどう考えていますか？

クロッキーは作家の視点の集約で、時間や画材の制限が大きいからこそ作家の大切にしたいことが浮き彫りになってくると感じています。
油彩の制作の準備段階でクロッキーやデッサンをするイメージをお持ちの方が多いと思います。
制作の途中段階で改めてクロッキーやデッサンを描いてみると、より明確に描きたかったポイントが見えるこもしばしばです。